

ASP・SaaSイノベーションシンポジウム2008

「MIJSコンソーシアム

- 活動と今後の取り組み - 」

2008年5月19日

メイド・イン・ジャパン・ソフトウェア・コンソーシアム理事長
(東洋ビジネスエンジニアリング取締役会長)

千田峰雄

The background of the slide is a light blue world map. Japan is highlighted in a darker orange-red color. A horizontal yellow line runs across the map, passing through the Japanese archipelago.

MIJSとは？

コンソーシアム設立の目的

MIJS

日本の有力ソフトウェアベンダが結集し、製品の相互連携を行い、**海外展開及び国内ビジネス基盤の強化**を図る。

MIJSの目指すもの



MIJS ……日本のトップクラスの製品を持つ
パッケージベンダが集結

3つの大きな目標を持って活動中！

海外展開

製品連携
(SOA、BPM)

SaaS連携

MIJSの歩み



		2006 8月	10月	2007 2月	4月	5月	10月	11月	12月	2008 1月	3月
会 員	正会員	13社 設立時	17社		22社						27社
	賛助会員				発		8社				12社
	ア-リース テージ会員				足		6社				7社
海外展開			上海事務所設置			総務省協力 欧米市場調査開始 (2007年5月) (2008年3月)			ロンドンオフィス 設置		
製品連携				MIJSカンファレンス (Japan)	MIJS標準規格 構想発表 第1回	2月1日		MIJSカンファレンス (Japan)	MIJS標準規格 第一弾発表 第2回	11月29日	MIJS標準規格 ホームページ上に 公開 1月16日

MIJSメンバー企業(正会員)

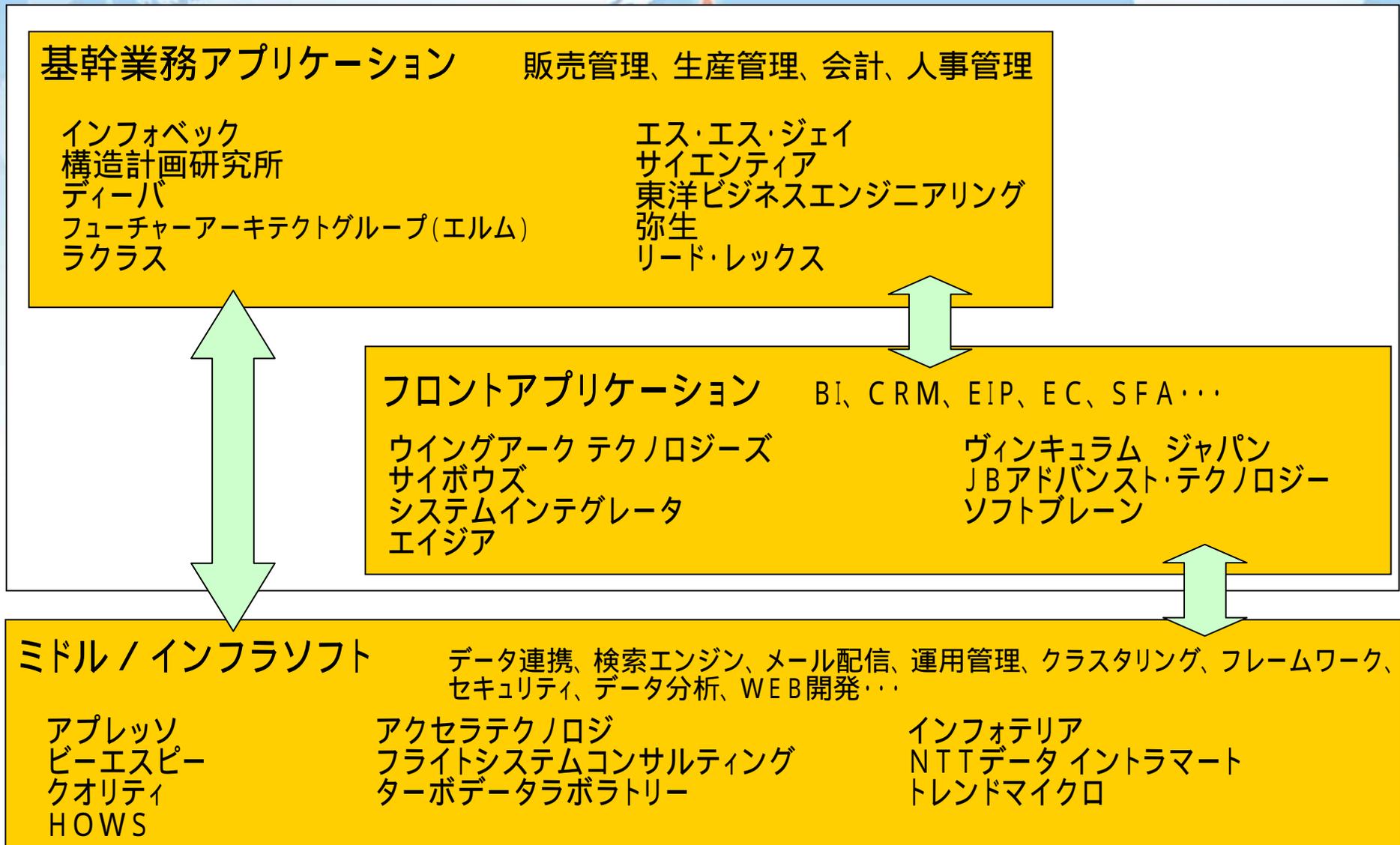
MIJS
(平成20年4月18日現在)

理事長	東洋ビジネスエンジニアリング株式会社	取締役会長	千田 峰雄	(せんだ みねお)
副理事長	ウイングアーク テクノロジーズ株式会社	代表取締役社長	内野 弘幸	(うちの ひろゆき)
副理事長	サイボウズ株式会社	代表取締役社長	青野 慶久	(あおの よしひさ)
副理事長	株式会社システムインテグレータ	代表取締役	梅田 弘之	(うめだ ひろゆき)
監査役	株式会社アプレッソ	代表取締役社長	長谷川 礼司	(はせがわ れいじ)
監査役	株式会社リード・レックス	代表取締役社長	梶山 桂	(かじやま かつら)
理事	インフォテリア株式会社	代表取締役社長CEO	平野 洋一郎	(ひらの よういちろう)
理事	インフォバック株式会社	代表取締役社長	三浦 進	(みうら すずむ)
理事	株式会社エイジア	代表取締役	江藤 晃	(えとう あきら)
理事	株式会社NTTデータ イントラマート	代表取締役社長	中山 義人	(なかやま よしと)
理事	クオリティ株式会社	代表取締役	浦 聖治	(うら きよはる)
理事	ソフトブレン株式会社	代表取締役社長	秋山 真咲	(あきやま まさき)
理事	株式会社HOWS	取締役会長	大塚 裕章	(おおつか ひろあき)
理事	ラクラス株式会社	代表取締役社長	北原 佳郎	(きたはら よしろう)
	アクセラテクノロジー株式会社	代表取締役社長	進藤 達也	(しんどう たつや)
	ヴィンキュラム ジャパン株式会社	代表取締役社長	城田 正昭	(しろた まさあき)
	エス・エス・ジェイ株式会社	代表取締役社長	竹内 伸	(たけうち しん)
	株式会社構造計画研究所	代表取締役社長CEO	服部 正太	(はっとり しょうた)
	株式会社サイエンティア	代表取締役社長	荒井 秀和	(あらい ひでかず)
	J Bアドバンスト・テクノロジー株式会社	代表取締役社長	山田 隆司	(やまだ たかし)
	株式会社ターボデータラボラトリー	取締役CEO	國正 興一	(くにまさ こういち)
	株式会社ディーバ	代表取締役社長	森川 徹治	(もりかわ てつじ)
	トレンドマイクロ株式会社	日本代表上席執行役員	大三川 彰彦	(おおみかわ あきひこ)
	株式会社ビーエスピー	代表取締役社長	竹藤 浩樹	(たけふじ ひろき)
	フューチャーアーキテクト株式会社	代表取締役	安延 申	(やすのべ しん)
	株式会社フライトシステムコンサルティング	代表取締役社長	片山 圭一朗	(かたやま けいいちろう)
	弥生株式会社	代表取締役社長	岡本 浩一郎	(おかもと こういちろう)

“MIJSが日本のソフトウェアビジネスを変える”

Copyright © 2008 Made In Japan Software Consortium.

MIJS プロダクツ群 —融合を目指して—



MIJSメンバー企業

MIJS

賛助会員企業：12社

(社名：50音順)

イー・モバイル株式会社
特定非営利活動法人エルピーアイジャパン
NEC
NTTコミュニケーションズ株式会社
シャープ株式会社
マイクロソフト株式会社
日本アイ・ビー・エム株式会社
日本オラクル株式会社
株式会社日立製作所
富士ゼロックス株式会社
株式会社富士通ビジネスシステム
富士通株式会社

アーリーステージ会員：9社

アクロスゲートグローバルソフトウェア株式会社
株式会社ヴィバーク
株式会社WEIC
サイファーゲート株式会社
三三株式会社
株式会社ジャスミンソフト
ソフトイーサ株式会社
株式会社ネオレックス
株式会社テラスカイ

ベンダー集結のメリット

1. 国内に対するインパクト

ディストリビュータ、リセラー、マスコミ、官公庁…

2. コストのシェア

拠点費用、調査費用、運営費用、サイト構築…

3. 情報・ノウハウの共有

中国市場の特性、欧米市場の状況、人材育成…

4. 製品連携の活性化

MIJS標準規格による連携、製品連携による共同マーケティング

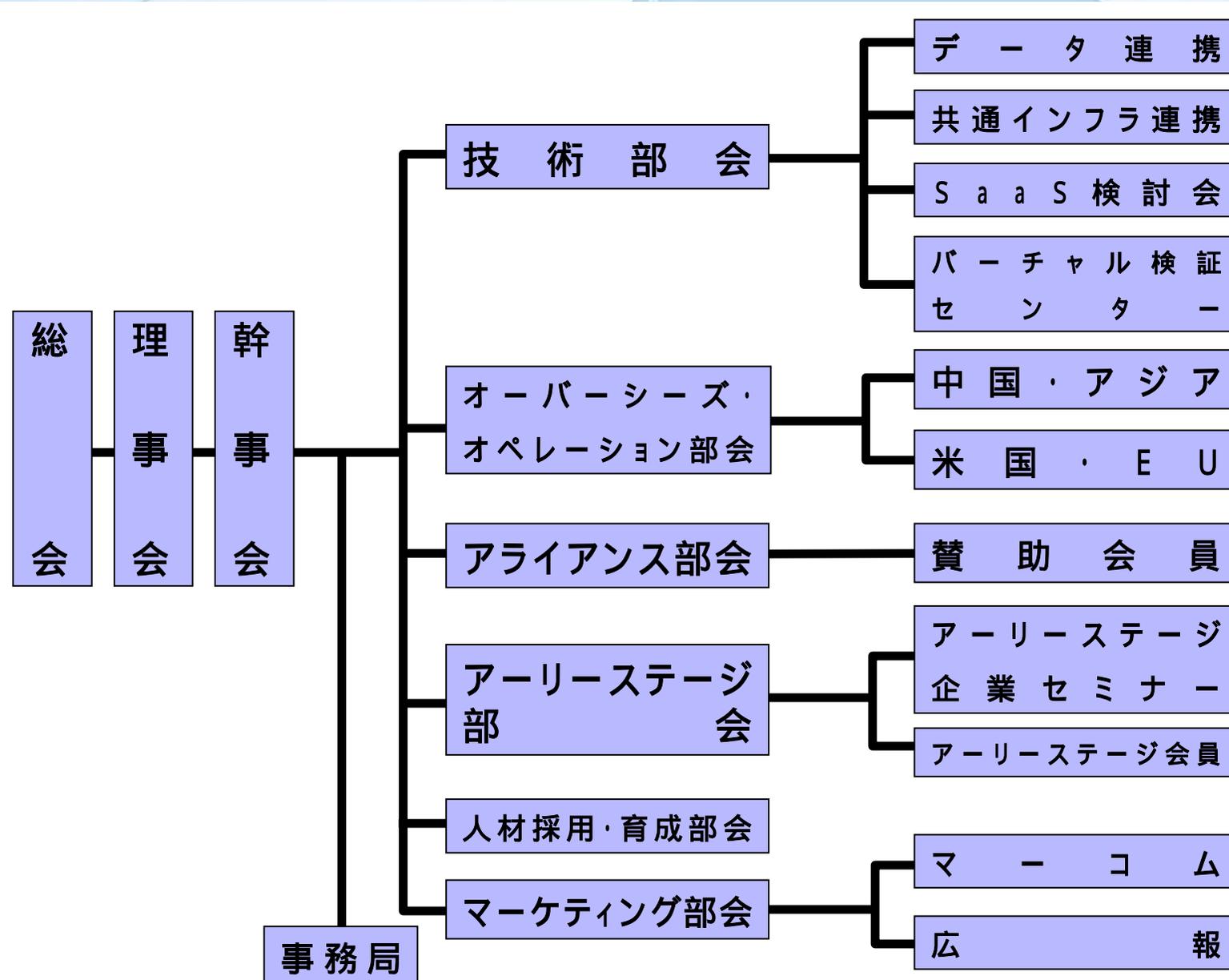
5. 共同プロモーション

MIJSカンファレンス、海外での共同セミナー…

6. 新規事業の可能性

SaaS事業の検討～立上げ

MIJSの活動



The background of the slide is a light blue world map. The country of Japan is highlighted in a darker orange-red color. A horizontal yellow line runs across the map, passing through the Japanese archipelago.

MIJS 標準規格

MIJS標準規格ベースのデータ連携

1. MIJS標準規格の策定と公開・・・2008/1/16第一弾公開済み

2. MIJS標準用連携アダプタ仕様公開・・・デベロッパーキット構想

- ・参加製品が連携アダプタを製作するための標準仕様をDKを提供

3. 製品連携の検証環境を常設・・・2007/11/19バーチャル検証センタ

- ・参加企業は、バーチャル検証センタでアダプタの連携検証を行える。

4. MIJS標準規格の保証

- ・MIJSは、公開した仕様に準拠していれば連携できることを保証

- ・仕様に準拠した連携アダプタの製作、動作確認は各ベンダの責任

5. MIJS標準連携アダプタを用意してSaaS参加

- ・各ベンダはアダプタ検証後にSaaS参加、既存アプリと連携可能に。

- ・ただし、アダプタを用意せず、単体サービス提供型でも参加は可能

MIJS 標準規格経由のデータ連携



標準規格化により3つの連携を実現！

1: トランザクションデータ連携

製品間データ連携のための標準規格とアダプタ作成

2: マスタデータ連携

マスタデータ連携のための標準規格とアダプタ作成

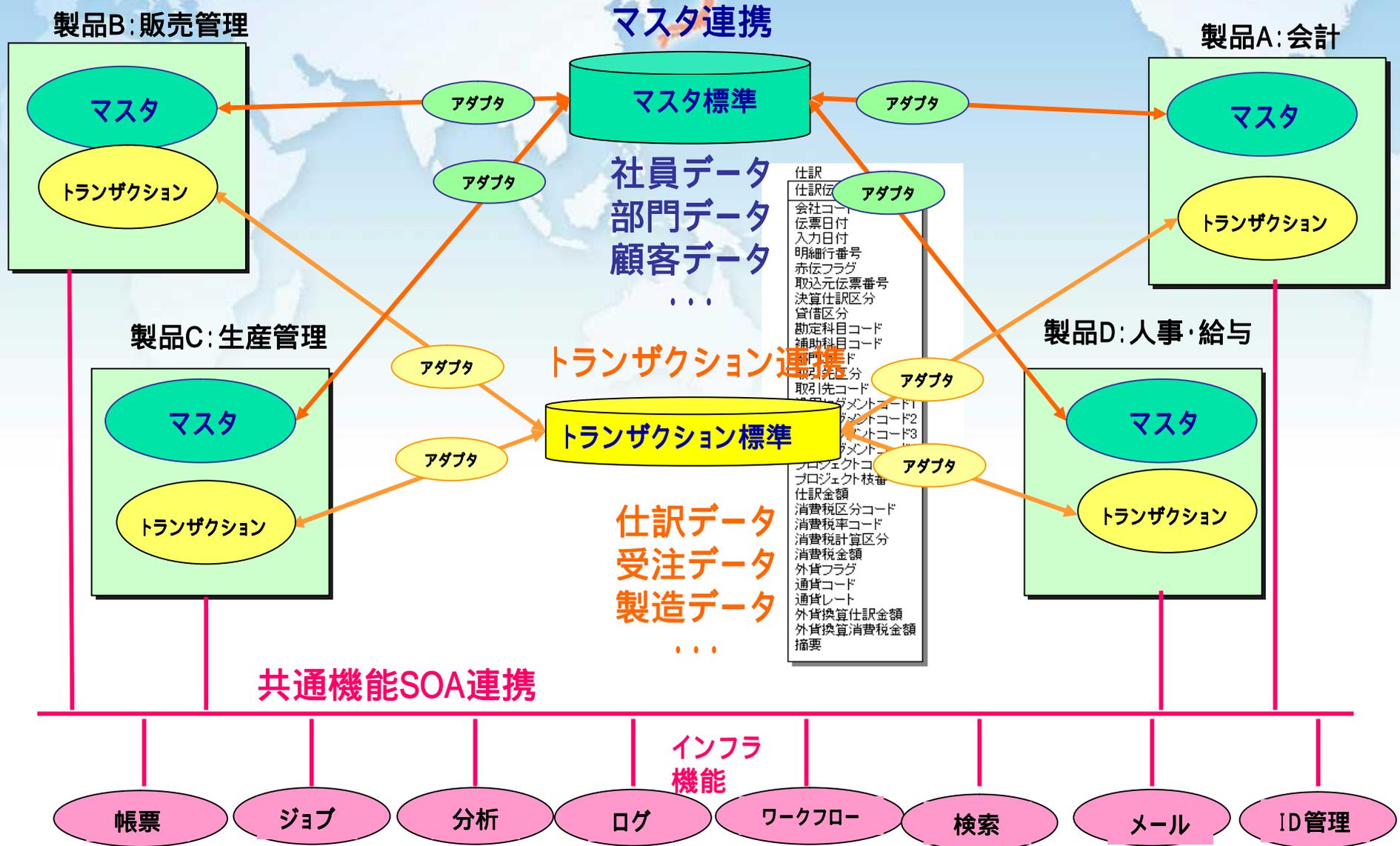
3: 横断的機能の共通SOA化

アプリケーションから独立した機能をSOAインフラ化

	第一弾(現在)	第二弾(予定)
トランザクション	仕訳データ 生産依頼データ 生産報告データ	ログデータ 受注データ
マスタ	社員データ 部門データ	取引先データ 商品データ 勘定科目データ
共通機能SOA化	帳票、JOB、ログ、BI、検索、 メール、ID管理、ワークフロー	

標準規格を介したアプリケーション間連携

～ 各製品は、標準規格対応の連携アダプタを用意するだけで他と連携可能に～



MIJS 次の展開

— SaaS 考察 —

SaaS = Software as a Service

～ 5年後、SaaSはあたりまえになる～

MIJS



SaaSの特長

- インストール不要
- 従量課金
- セキュリティ
- ソフトウェア自動更新
- 非資産化
- カスタマイズ



SaaSに通じる多くの動向

社会的ニーズ	通信 環境	技術
内部統制 (ファイルや履歴を一元管理)	通信速度の向上 (高速データ転送による ストレスのない動作)	XML (加工、再利用可能なデータ)
電子マネー (小額課金、従量課金)	公衆無線ネットワーク (モバイル常時接続)	フラッシュメモリによる HDの代替 (超高速アクセスによる 快適な動作)
セキュリティ強化 (エンドユーザーリスク排除)	IPv6 (プッシュ型Webサービス実現)	シンクライアント (インストールなしでの稼動)
		携帯機器のWEB端末化 (例: Google Android)

SaaSのメリット(ユーザー/ベンダ視点) MIJS

■ ユーザー側

- ハードウェアの調達、設置、増設、などの作業負荷から開放される。
- 環境の設定、アプリケーションのインストールやバージョンアップ、パッチ適用など専門知識を要する作業が不要になる。
- システムやネットワークの監視、保守作業も軽減できる。
- 堅牢なセキュリティやログ監視、内部統制の仕組みが提供されている。
- 利用者やリソースの増減による設備増設などの対応も容易になる。
- 試用という形で確認してから導入できる。
- すぐに利用開始でき、すぐに利用終了できる。
- 複数のアプリケーションを利用した場合に、シングルサインオンやデータ連携などがあらかじめ実現できている。
- 利用という形態なので、所有に比べて割安である。

■ ベンダー側

- 公開により幅広いユーザに認知され、使ってもらえる機会が増える。
- 料金を低価格に抑えることが可能なので、中小企業にも使ってもらえる。
- 初期導入、環境構築に関する営業・サポートが不要となり、手離れが良い。
- ユーザの成長に応じて、利用から所有へと切り替わるケースも期待できる。
- フロービジネスでなくストックビジネスなので、経営的に安定する。

1. 幅広いアプリケーションが、オープンに参加できるSaaS

特定ベンダの製品を中心にするのではなく、競合製品も含めて幅広い製品がオープンに参加でき、ユーザが自社にあったものを自由に選択できるサイト。

2. アプリケーション間データ連携の仕組みを持ったSaaS

MIJS標準規格をベースにしたデータ連携の仕組みを持つ。マスタデータのトラッキングやランザクシオンデータの連携、アプリケーションレベルまでを考慮した総合シングルサインオンを実現。

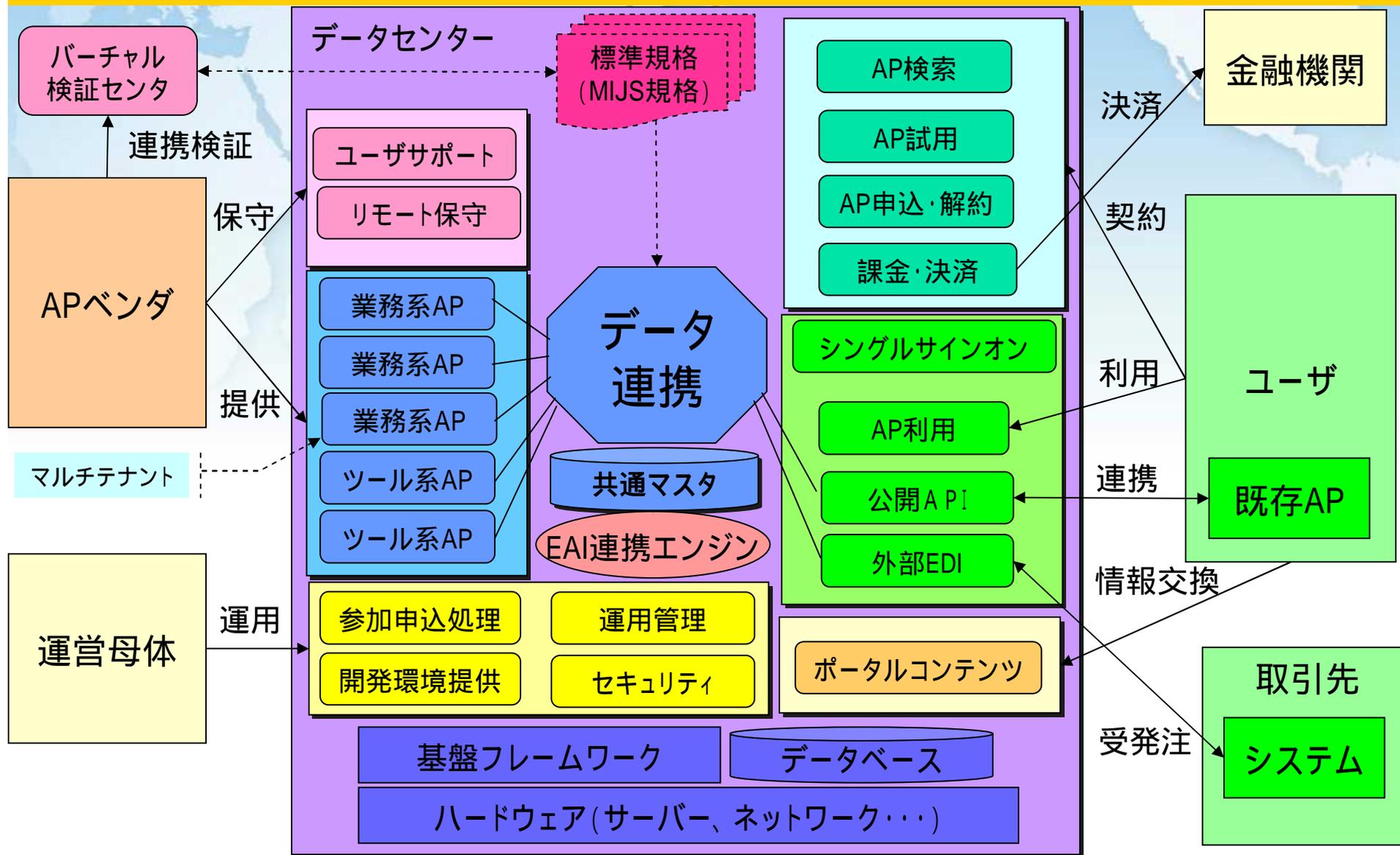
3. 実績あるアプリケーションが結集したSaaS

スタート段階から実績と信頼のある優良アプリケーションが数多く参加できており、それぞれのアプリケーションが連携できている。

4. 既存システムとの連携ソリューションも提供

既存システムとSaaS上のアプリケーションを連携するための外部連携ソリューションも提供している。

MIJSの考えるSaaSポータルサイト MIJS



MIJSの目指すSaaS連携



MIJSパッケージ認定(SaaSプロモーション)
製品連携に基づくアプリケーションのワンストップ販売SaaS型提供
BPMをベースにしたSCMなどのプロセス連携の提供
各種サービスビジネス(コンサル、運用)

